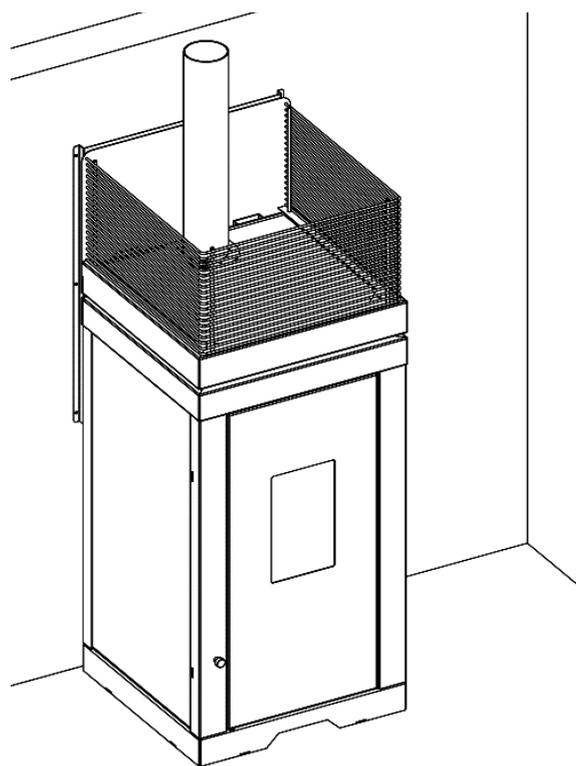




取扱説明書

サウナ用

無電ペレットストーブ



Venere 6

この取扱説明書は、大切に保管してください。
設置前に設置手順と取扱方法の説明を注意深くお読みください。

お客様へ

当社の製品をご購入いただき誠にありがとうございます。このマニュアルには、本製品を安全に効率良く使用するためのすべての情報と役立つアドバイスが記載されています。

インフォメーション

この取扱説明書はメーカーによって作成されたもので、製品の不可欠な部分です。製品を販売または譲渡する場合は、この取扱説明書の存在を常に確認してください。この取扱説明書に記載されている情報は、購入者、製品の設置、使用、およびメンテナンスをするすべての方々にとって重要です。製品の設置、使用、メンテナンスを行う前に、このマニュアルに記載されている指示と技術情報をよくお読みください。この取扱説明書に記載されている指示を遵守することで、人や物の安全が保証されます。これにより、経済的な運用とより長い運用期間が保証されます。製造業者は、許可されていない製品の改造または非オリジナルのスペアパーツについて、取扱説明書に示されている設置、使用、およびメンテナンスの規則に従わなかったために生じた損害について、一切の責任を負いません。製品の設置および使用は、製造元の指示に従って、ヨーロッパ、各国および地域の規制に準拠して行う必要があります。設置、電気接続、機能の検証、メンテナンス、および修理は、製品に関する十分な知識を持つ資格のある認定担当者のみが実行できます。製品の設置は、木製の壁や可燃物のすぐ近くで行わないでください。正しく設置するには、「安全隔離」セクションの次の事項を遵守する必要があります。製品を設置する床の正確な平面度を確認してください。カバーのスチール部分を扱うときは、最初のクリーニングで取り除くのが難しい指紋が残らないように、きれいな綿の手袋を使用することをお勧めします。煙道とペレットストーブを接続し、ストーブは少なくとも 2 人で組み立てる必要があります。ペレットストーブには標準的な木質ペレットのみを使用して操作してください（「燃料」の章を参照）。液体燃料を使用してペレットストーブを操作したり、残り火を焚いたりしないでください。運転中は設置室内の換気を十分に行ってください。誤動作が発生した場合、燃料供給を中断する必要があります。障害の原因が取り除かれるまで、ストーブを再起動しないでください。故障や誤動作が発生した場合は、製品の使用を中止してください。失火が繰り返された後、バーナー内に未燃のペレットが蓄積した場合は、点火前に除去する必要があります。ペレットストーブを操作すると、表面、取っ手、煙道、ガラスが高温になります。操作中は、適切な保護服または補助具を使用してこれらの部品に触れてください。ガラス上で熱が発生するため、ストーブの操作に不慣れな人が設置場所に立ち入らないようにしてください。製品を操作する際の注意事項や起こりうる危険について、子供たちに知らせてください。取扱説明書を読んでわからないことや問題がある場合は、販売店にご相談ください。ストーブの上または所定の最小安全半径内に非耐熱物を置くことは禁止されています。使用中にドアを開けたり、ガラスが割れた状態でストーブを使用したりすることは禁止されています。条件、制限、および除外については、製品に添付されている保証書を参照してください。製品の継続的な開発と更新のポリシーを追求するために、メーカーは事前の通知なしに適切と思われる変更を行う場合があります。この書類はメーカーの所有物です。法律に従ってすべての権利を留保する会社の書面による許可なしに、全体または一部を第三者に開示することはできません。

指令と規制

当社のすべての製品は以下のヨーロッパ規格と指令に準じています。

89/366 CEE
2004/108 CE
2006/95 CE
89/106 CEE

EN 60335-1: EN 60335-2-102
EN 61000-3-2: EN 61000-3-3
EN 50366: EN 55014-1 ; 55014-2
EN 14785 *

1	一般的規則	4
1.1	煙突または煙道	4
1.2	チムニーポット	5
1.3	火災の予防	5
2	特性と技術データ	6
2.1	特長	6
2.2	技術データ	6
2.3	製品識別データ	6
3	燃料	7
3.1	一般的な注意事項	7
4	設置	8
4.1	一般的な注意事項	8
4.2	安全離隔	9
4.3	床と壁の保護	10
4.4	排煙管	11
5	組み立て	12
5.1	一般的な注意事項	12
5.2	開梱	12
5.3	組み立て	12
6	使用	14
6.1	タンクの充填	15
6.2	点火する	16
6.3	燃焼モード	16
6.4	消火	16
7	警告とメンテナンス	17
7.1	安全上の注意事項	17
7.2	ドアの開閉	17
7.3	灰の処理	17
7.4	燃焼ポットのクリーニング	17
7.5	灰受けのクリーニング	17
7.6	燃焼室のクリーニング	17
7.7	熱交換室のクリーニング	18
7.8	排気管システムのクリーニング	18
7.9	金属およびセラミック部品のクリーニング	18
7.10	シュートのクリーニング	18
7.11	ガラスのクリーニング	18
7.12	ガラスの破損	18
7.13	ストーブを使わない季節には	19
7.14	通常及び臨時メンテナンス	19

1 一般的規則

この製品には一般的に、「木材またはその他の固体バイオ燃料を燃料とする熱発生器」に関するヨーロッパの法律が参照されます。UNI 10683: 2012 規格および UNI 15821: 2010 規格

1.1 煙突または煙道

各器具には、煙道と呼ばれる垂直のダクトがあり、燃焼によって生成された煙を自然の通風によって外部に排出する必要があります。

煙道は次の要件を満たす必要があります。

他の暖炉、ストーブ、ボイラー、または換気フードを接続する必要はありません (fig.1)。

エアギャップまたは適切な断熱材を使用して、可燃性または可燃性物質から十分に離す必要があります。

内部セクションは均一で、できれば円形でなければなりません。正方形または長方形のセクションには、半径20 mm以上の丸みを帯びたエッジが必要です。辺間の最大比率 1.5;壁は可能な限り滑らかに、狭くすることはできません。不連続のない規則的な曲線、軸からの偏差が 45° を超えない (fig. 2)。

各器具には、ストーブの煙排出パイプの直径以上の断面と宣言された高さ以上の独自の煙道が必要です (表 2 を参照)。

2 つのストーブ、暖炉とストーブ、ストーブと薪ストーブなどを同じ部屋で使用しないでください。一方のドラフトが他方のドラフトを損傷する可能性があるためです。また、隣接する部屋に設置して設置室と連通する場合でも、設置環境を悪化させる集合型換気ダクトは使用できません。

煙道に固定または可動式の開口部を設けて、それが供給されるもの以外の器具を接続することは禁じられています。

プラントエンジニアリング用の他の空気供給チャネルやパイプを煙道内に通すことは、たとえ大きすぎても禁止されています。

気密ドアから簡単に開けて検査できるように、煙道の口の下に固形物と結露を収集するためのチャンバーを煙道に装備することをお勧めします。

排気口が平行な煙道パイプを使用する場合は、風に逆らって煙道を 1 エレメント分高くすることをお勧めします。

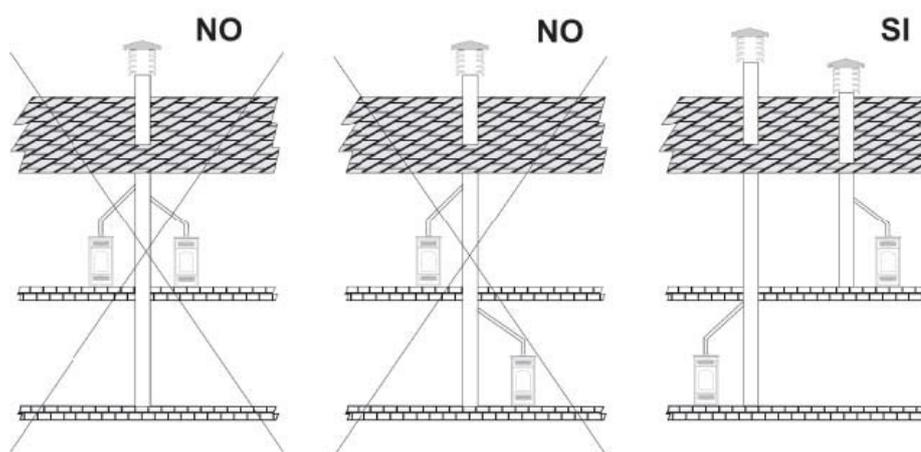


Fig 1

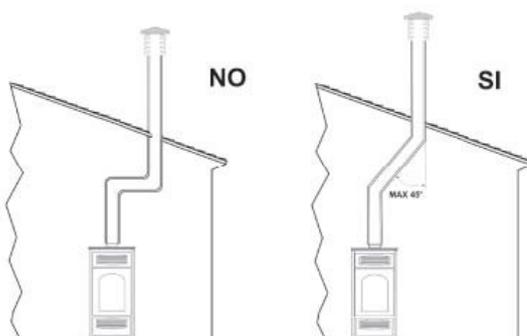


Fig.2

1.2 チムニーポット

煙道の上部には、煙突ポットと呼ばれる、燃焼生成物の大気への分散を促進するように設計された装置が装備されている必要があります。

チムニーポットは、次の要件を満たす必要があります。

- ・ 煙道と同等の断面および内部形状を持つ。
- ・ 煙道の 2 倍以上の有用な出口セクションを用意します。

屋根から突き出ている、または外部と接触したままの煙突ポット（たとえば、吹き抜けの天井の場合）は、レンガの要素で覆われ、いずれにせよ十分に断熱されている必要があります。雨、雪、異物、およびあらゆる方向および傾斜の風が発生した場合に燃焼生成物の排出が保証されるような方法で煙道に入るのを防ぎます（防風チムニーポット）。

チムニーポットは、燃焼生成物の適切な分散と希釈を保証するような方法で、いずれにしても還流領域の外に配置する必要があります。

1.3 火災の予防

ストーブの設置と使用は、製造元の指示および地域の居住規制に従わなければなりません。

注意: ヒューム排気管が壁または天井を通過する場合は、特定の設置方法（保護、断熱、熱に弱い物質からの距離など）を適用する必要があります。

▲ 警告: 排気管が壁または天井を通過する箇所では、特定の設置方法（熱保護、断熱、熱に弱い物質からの離隔など）をする必要があります。

- ・ 煙突接続パイプは可燃性の表面を決して通過しないでください。
- ・ このユニットを別の器具ですでに使用されている排気口に接続しないでください。
- ・ 梁、木製家具、カーテン、可燃性液体などの可燃性または可燃性の材料のすべての要素を炉床の放射領域の外側に置き、いずれの場合も暖房から少なくとも 1 m 離すことをお勧めします。ブロック。
- ・ 周囲の空間に可燃性または熱に弱い材料で作られたカバーがある場合は、絶縁性かつ不燃性の材料で作られた保護ダイアフラムを配置する必要があります。床が可燃性の材料で作られている場合は、囲炉裏の口に横に30cm、正面から30cm突き出た不燃性の材料で作られた保護材を作成する必要があります。

・ サウナ室の高さが 2 メートル未満の場合、部屋の天井を断熱する必要があります (4.2.2 項を参照)。

- ・ 詳細については、現地で施行されている規制を参照してください。

▲ 警告: 煙突から部屋の壁への熱の伝達を避けるために、金属ブラケットで煙突をサウナルームの内壁に直接固定することは禁止されています。

2 特性と技術データ

2.1 特長

サウナ用のペレットストーブは、高品質の木質ペレット (par.3 の燃料を参照) のみを使用するように作られた器具であり、大気中の物質にさらされていない密閉された保護された場所に設置する必要があります。

2.2 技術データ

モデル	Venere 6
最大火力	6,5 kw
ペレット消費 (min/max)	1,35 kg/h
熱効率	80,5 %
おおよその使用部屋容積	6-10 m ³
ペレットタンク量	15 kg
煙突直径サイズ	80 mm
重量	90 kg
ストーブサイズ (LxPxH)	425x415x1120 mm
外部ペレットタンクサイズ (LxPxH)	435x230x750

2.3 製品識別データ

技術ラベルは、ストーブの情報と能力を示しています。改ざん、取り外し、技術ラベルの欠如は、製品識別の欠如により、設置および保守操作を困難にします。破損した場合は、サービスセンターに複製をリクエストしてください。データラベルの重要性を考慮して、常に見えるように距離を考慮してストーブを設置することをお勧めします。

3 燃料

3.1 一般的な注意事項

ペレットストーブは、木材から出来た木質ペレット燃料のみを燃焼するように設計されています。

木質ペレットは、乾燥した天然木材および加工残渣から得られる木材おがくずの圧縮プレスで製造された燃料であり、製品の形状は、木材に含まれる天然物質であるリグニンによって保たれます。小さな円柱の典型的な形状は、ペレット製造機によって作られます。

市場にはさまざまな種類のペレットがあり、使用する木材の種類によって品質や特性が異なります。

注意: 必ず認定された高品質の木質ペレットを使用してください。DIN、DIN PLUS、ÖM 7135、ペレットゴールド、カタスなど、低品質のペレットを使用した場合、同社はストーブの適切な機能を保証しません。

本製品は市場で販売される品質の良いペレットで優れた性能と完璧な動作品質を保証するようにテストおよびプログラムされています。

材質: 木

長さ: 30 mm程度

直径: 6から6.5 mm

低発熱量: 4,8 kWh / kg

含有湿度: 8%以下

残灰分量: 0.5%以下

品質の良いペレットは、表面が滑らかで光沢があり、粉が少なく、均一された長さのものです。低品質のペレットには長さがバラバラで、垂直方向と水平方向の亀裂があり、粉が多いものです。

ペレット燃料の特性と品質は、ストーブの自律性、効率、および適切な機能に大きく影響するため、次のことをお勧めします。

メーカーが指定している寸法以外のペレットの使用は避けてください。

質の悪いペレットや、おがくず、樹脂、化学薬品、添加剤、接着剤が含まれているペレットの使用は避けてください。

湿ったペレットの使用は避けてください。

不適切なペレットを使用すると、以下の原因になります。

- ・ 燃焼ポット（ロストル）と排煙管の詰まり。
- ・ 燃料消費量の増加
- ・ パフォーマンスの低下、
- ・ ストーブの正常な機能を保証できません。
- ・ ガラスの汚れ、
- ・ 未燃の顆粒と硬くて重い灰の生成。

ペレットに水分が存在すると、カプセルの体積が増加し、カプセルが崩れます。

- ・ ペレット供給システムの不具合が発生する（ペレットが滑り落ちない）
- ・ 湿度が多く燃焼が悪い。

ペレットは、乾燥した屋根下に保管する必要があります。バッグがつぶれておがくずが形成されないように、バッグの取り扱いには特に注意する必要があります。

高品質のペレットを使用するが、示されているものとは異なる寸法および熱特性を持つ場合は、ストーブの操作パラメーターを変更する必要がある場合があります。必要に応じて、認定サービスセンターにお問い合わせください。

質の悪いペレットを使用し、ストーブを損傷し、その性能を損なうことに加えて、製造元の指示に従わない場合、保証と製造元の責任が免除される場合があります。

4 設置

4.1 一般的な注意事項

本製品は、設置環境を損なわないように設置する必要があります。
設置者は、関連する規制の条項に細心の注意を払って準拠する必要があります。

4.1.1 安全隔離

- 火災の危険性がある室内への設置は禁止されています。
- 雨水などにさらされる屋外での設置は禁止されています。
- 設置室内に空気を引き込むための換気扇などがある室内に設置することも禁止されています。
- 設置は、安全で簡単に使用でき、メンテナンスが簡単な場所で行う必要があります。
- 壁の厚みは最大 10cm までの部屋の設置ができます。ストーブと壁との離隔が狭くなるので 10cm 以上の壁の厚みでの設置は禁止します。

4.1.2 サウナ室の換気

サウナ室は、ストーブが設置されている壁の床レベルに配置され、最小寸法 150x150 mm の空気入口を通過する室温の空気で換気する必要があります。ほぼ同じ面積の排気口を、天井から 300 mm 下、最も近い端から少なくとも 1000 mm の反対側の壁に配置する必要があります。

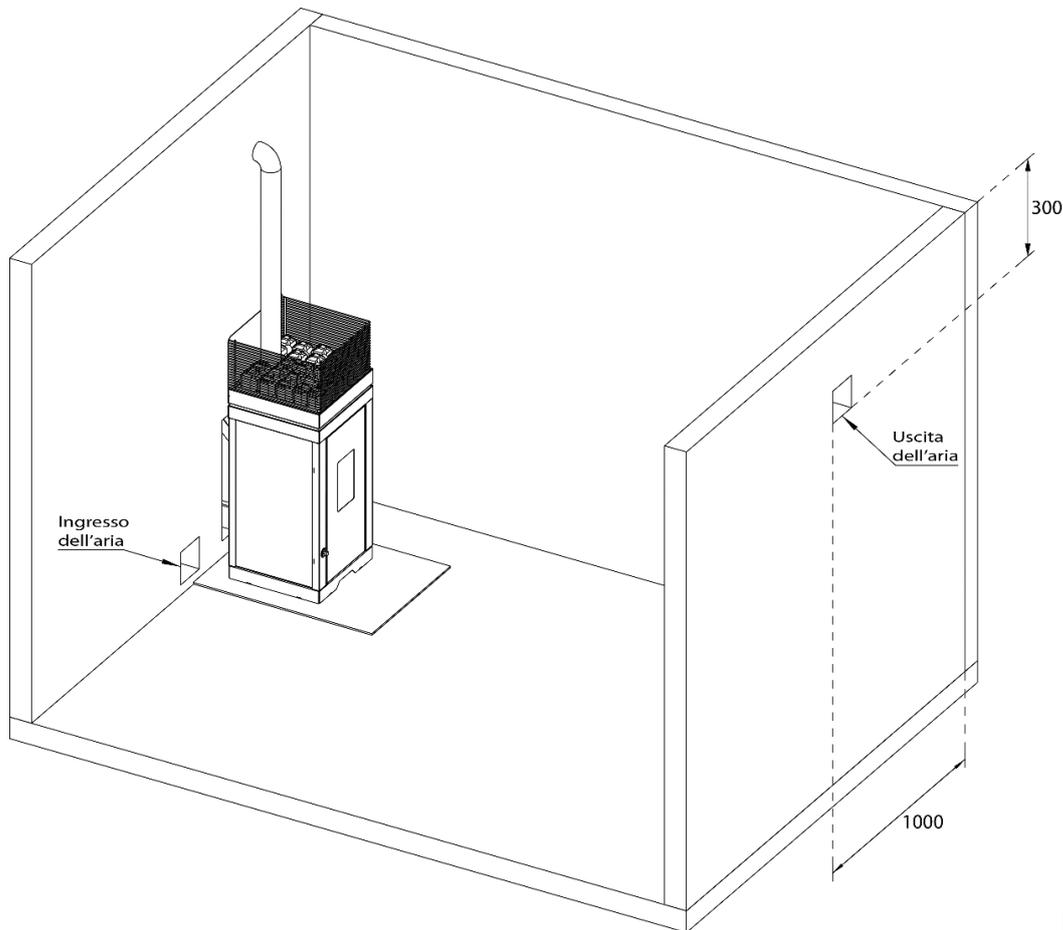


Fig.3

4.1.3 排煙システム

燃焼生成物が大気中に適切に拡散するのに適した排気システムに接続する必要があります。すべての部材は、火災反応クラス A1 の材料で作られている必要があります。特にこれらの要件に準拠していない柔軟な伸縮可能なアルミなどの金属パイプの使用は許可されません。注意: 煙突から部屋の壁への熱の伝達を避けるために、煙突からの熱の伝達されるような接続は禁止されています。

▲ 警告: 煙突から部屋の壁への熱の伝達を避けるために、金属ブラケットで煙突をサウナルームの内壁に直接固定することは禁止されています。

4.2 安全離隔

次の図は、本製品と壁との最低安全離隔距離を示しています。

4.2.1 壁面への設置(mm)

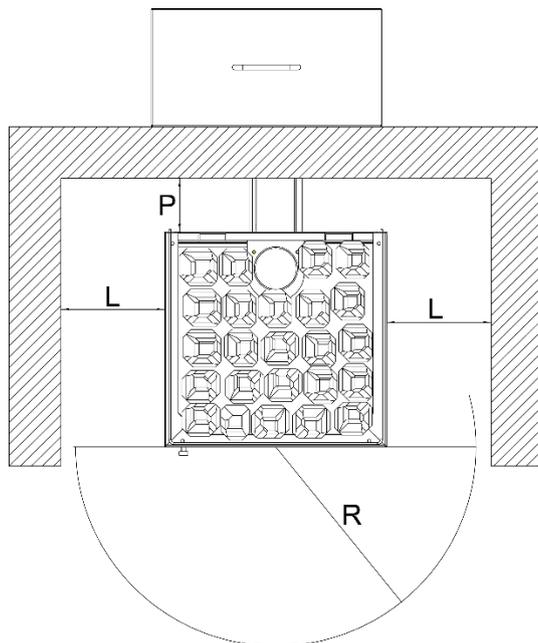


Fig.4

可燃物からの安全距離:

可燃性の背面壁からの最小離隔P = 100 mm

可燃性の側壁からの最小空気距離 L = 200 mm

可燃物からの正面距離 R = 1000 mm

4.2.2 可燃性の天井、壁からの安全離隔 (mm)

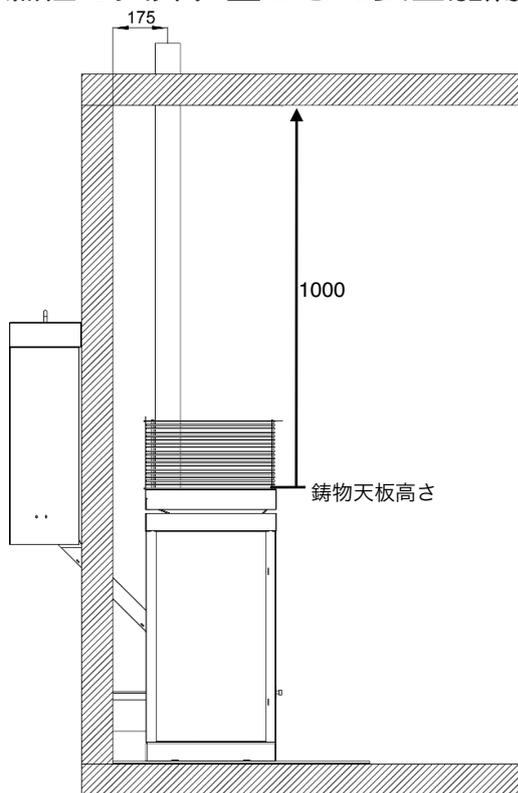


Fig.5

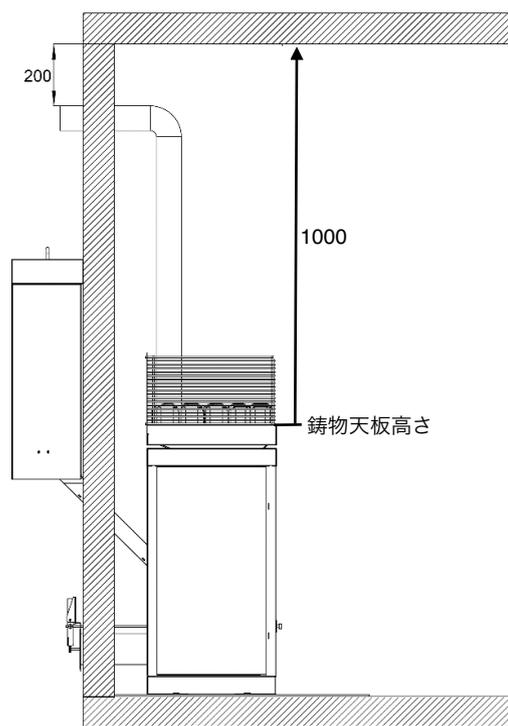


Fig.6

Fig. 5 と Fig.6 に示されている離隔値は、Fig.7 に示されているように、サウナの壁を断熱材で覆うことによって減らすことができます。断熱材は鉱物由来（バーミクライト、ロックウール、セラミック繊維など）で、公称密度が 80 kg/m³ を超えるものでなければなりません。

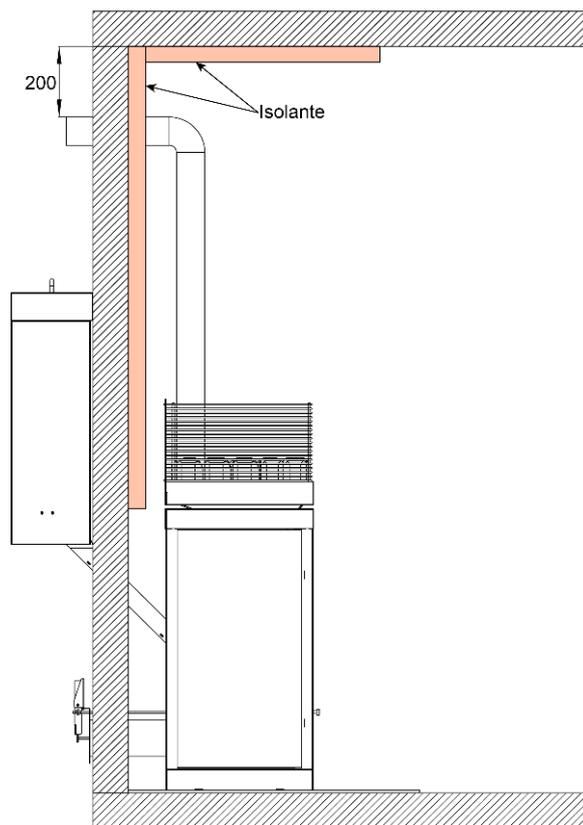


Fig.7

4.3 床と壁の保護

床や壁が熱や可燃性に弱い場合は、熱保護材（鋼板、大理石、タイルなど）を使用する必要があります。どのようなタイプの保護材を選択する場合でも、ストーブの前面から少なくとも 300 mm、側面から少なくとも 100 mm 突出し、ストーブの重量に耐え、少なくとも 2 mm の厚さが必要です (Fig.8 および Fig.9)。

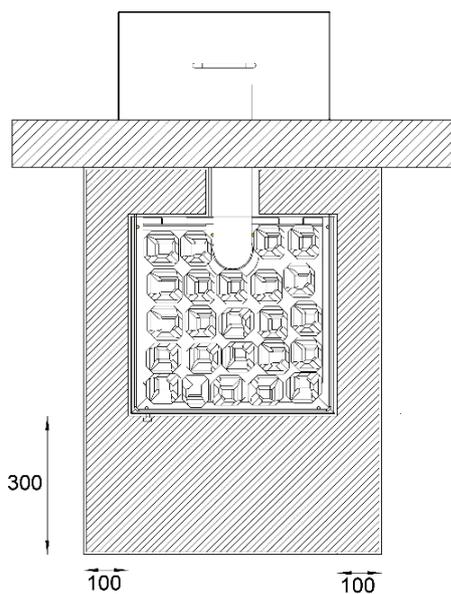


Fig.8

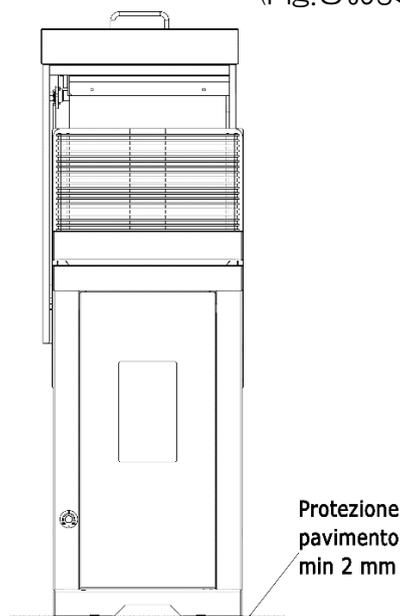


Fig.9

4.4 排煙管

4.4.1 一般的な注意事項

注意: 操作と安全の両方の観点から、排気ダクトは完全に防水され、正しく取り付けられている必要があります。

排気ダクトの施工は、次のマニュアルに示すように、専門業者が行う必要があります。部品を分解せずに定期的な清掃ができるように、適正な排気システムを作成してください。

注意: ストープ天板の排気出口は大変高温になるので380° C耐熱の薪ストーブ用の高熱対応シリコンで煙突と密閉してください。(ペレットストーブ用のOリングは取り外してください。)

- ・ 排気ガスの通過を妨げる排気バルブの設置は禁止されています。
- ・ 他の機器(ボイラー、フードなど)の煙や蒸気が排出される煙道への設置は禁止されています。

4.4.2 パイプと使用可能な最大長

すべてのコンポーネントは、火災反応クラス A1 UNI EN 13501-1 の材料で作られている必要があります。特に、伸縮可能な金属パイプの使用は許可されていません。

公称内径 80 mm の単層または二重壁の鋼管又はステンレス管を使用できます。

オスとメスのカップリング カラーは、最低 50 mm の長さが必要です。

このストーブは、Ø80 mm 排気管に対応するように設計されています

場合によっては二重壁パイプを使用する必要があります

排気システムのタイプ	Ø 80 mmの排気管
最小推奨長さ	2,5 m
最大長さ(90° 曲げ3ヶ所まで)	7 m
カーブの最大数	2

注意: 90° 曲げのドラフト損失は、1メートルの排気管のドラフト損失に相当する場合があります。T字管は90° 曲げと見なされます。

4.4.3 壁または屋根の排気管の通過用の穴: 推奨される断熱材と直径

ストーブの設置位置が決まったら(4.1項)、煙道ガスの排気管を通すための穴を開ける必要があります。

これは、設置のタイプ および交差する壁または屋根のタイプ(表3)によって異なります。

断熱材は、公称密度が 80 kg / m³ を超える鉱物由来のもの(パーミクライト、ロックウール、セラミックファイバー)をご使用ください。

	断熱材の厚さ[mm]	排気管の直径 [mm]
		壁の穴の直径[mm]
木製の壁、その他の可燃性の壁、または可燃性の部品を使用した壁	100	230
コンクリート壁または屋根	50	180
レンガの壁または屋根	30	140

5 組み立て

5.1 一般的な注意事項

この製品は壁の厚さが最大10cmまでの部屋にのみ設置できます。

事故や製品の損傷を避けるために、次のような推奨事項をいくつか示します。

- ・ 開梱および設置作業は 2 人以上で行ってください。
- ・ **すべての取扱作業は、適切な手段を使用し、現在の安全規制に完全に準拠して実行する必要があります。**
- ・ 梱包された製品の向きは、梱包上の絵文字や表記に従ってください。
- ・ ロープ、ストラップ、チェーンなどを使用する場合。降ろす重量に適しており、良好な状態であることを確認してください。
- ・ 梱包を移動するときは、ロープやチェーンなどが切れないよう、ゆっくりと連続的に移動してください。
- ・ 転倒を防ぐため、過度に傾けないでください。
- ・ 荷役車両（フォークリフト、クレーン等）の動作範囲内には絶対に立たないでください。

5.2 開梱

損傷を与えないように注意して製品を開梱し、付属品のパッケージと、ストーブ炉床から取り外し可能な部品などをブロックするために使用されているポリスチレンまたはボール紙を取り外します。

また、潜在的な危険源となる可能性のある包装の一部（ビニール袋、ポリスチレンなど）を子供の手の届くところに残さないようにし、各自治体の規則に従って処分してください。

5.3 組み立て

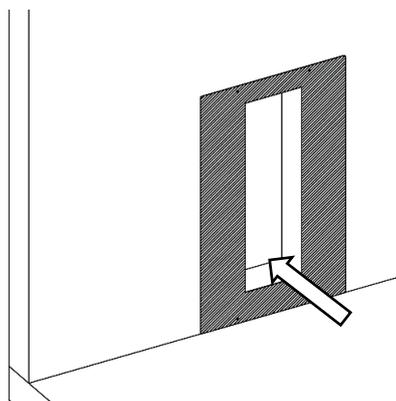


Fig. 10

付属のテンプレートをサウナの内壁の適切な位置に置き、テンプレートの長方形の穴を基準として壁に穴を開けます。

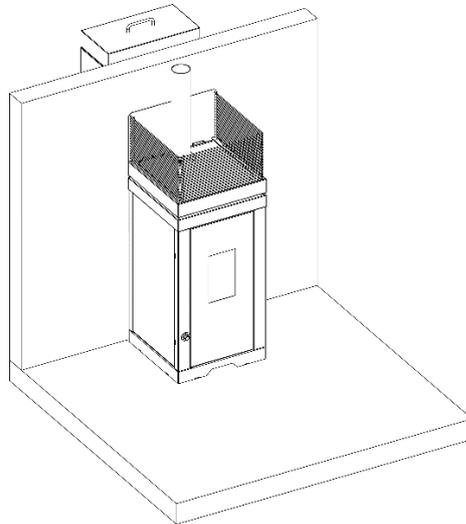


Fig. 11

ストーブを壁の穴に合わせて配置し、ペレットシュートが穴の中心にあることを確認します。

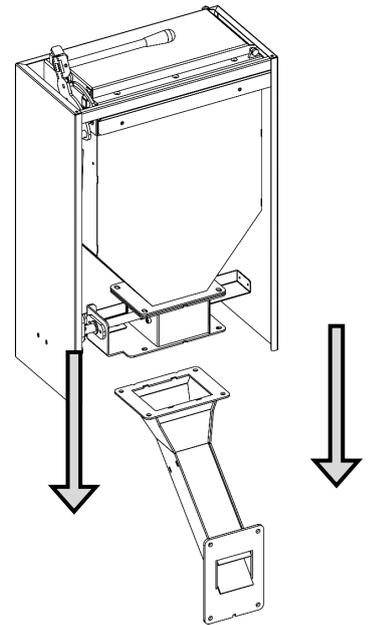


Fig. 12

付属のネジを使用してホッパーとペレットシュートの外側を組み立てます。

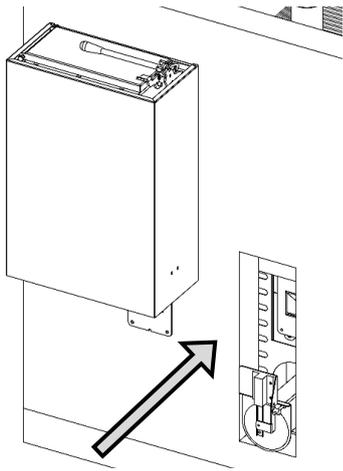


Fig. 13

内側と外側のペレットシュートを、内側シュートに配置されているシリコンガスケットを間にに入れて2つの長方形のプレートを合わせて、ストーブの外側部分を内側部分と結合します。

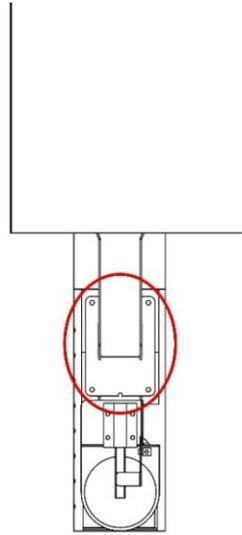


Fig. 14

シリコンガスケットが完全に潰すように内部スライドと外部スライドの間の固定ネジをしっかりと締めます。

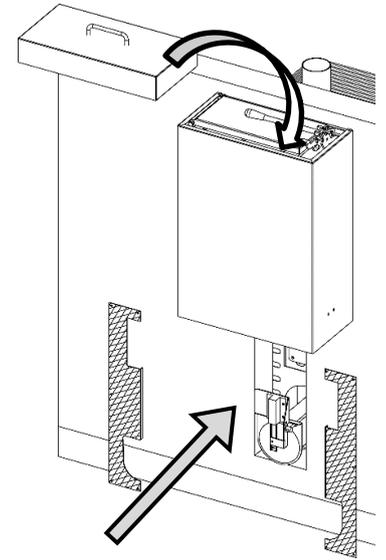


Fig. 15

壁の角穴を覆うように仕上げネット2枚を外壁に固定し、ペレットタンクカバーを台座に置きます。

5.2 温度センサーの位置

ストーブには、サウナ室の温度に基づいて燃焼用給気の流れを調整する機械式バルブが装備されています。温度はストーブが設置されている壁に設置する必要がある室温センサーによって検出されます。センサーを正しく配置するには、床から最低 140 cm の高さでサウナの壁に適切なセンサーホルダー (Fig.17) を固定します (Fig.16)。センサーホルダーにはいくつかの穴があり、ストーブからセンサーをさまざまな距離に配置できるため、サウナ室の温度をより高くまたはより低くすることができます。センサーをストーブから最も遠い穴 (最大) に置くと温度は高くなりますが、センサーをストーブから最も近い穴 (最小) に置くと温度は低くなります。

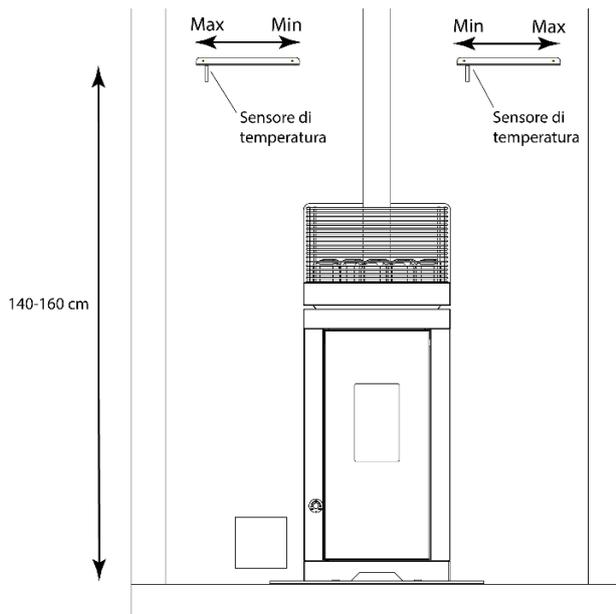


Fig.16

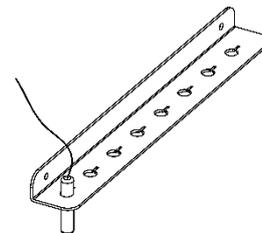


Fig.17

- ▲ 注意: センサーを取り付けた後、希望の温度に達したときにや外の給気バルブがほぼ完全に閉まっている、炎が小さくなっていることを確認してください。
- ▲ 警告: 温度センサーをストーブや熱い石に接触させないでください。またセンサーを床に置いて使わないでください。床の温度は低いので、ストーブが最大火力で運転し続け危険です。

6 使用

- 本製品を設置する際は、国およびヨーロッパの規格に関連するものを含め、地域のすべての規制を順守する必要があります。
- 機器を焼却炉として使用したり、設計目的以外の方法で使用しないでください。
- 木質ペレット以外の燃料は使用しないでください。
- 液体燃料は絶対に使用しないでください。
- 本製品の外面は、動作中に触れると高温になります。やけどをしないように注意して取り扱ってください。
- デバイスに許可されていない改造を加えないでください。
- メーカーが推奨するオリジナルのスペアパーツのみを使用してください。

ストーブが設置されている部屋に十分な換気があることを確認してください (セクション「1.3 外部空気取り入れ口」を参照)。

排気システムのすべての接合部が耐熱性 (250 ° C) のシリコン (接着剤なし) で密封され、劣化していないことを確認してください。

煙道ガス排気システムの清浄度を定期的に確認してください。

- ⚠ 注意: ストーブの操作中は、可燃性の製品をストーブから十分に離してください (前壁から 100 cm 以上離してください)。
- ⚠ 注意: 煙が漏れるのを防ぐため、ストーブをオフにして清掃作業を行う場合を除き、燃焼室を閉じたままにしてください。
- ⚠ 注意: ストーブをつけたままペレットに燃料を補給する場合は、ペレットが完全に燃え尽きていないことと、燃焼ポットに炎が常に存在していることを確認してください。炎が消えると、濃い白煙が発生し、急に燃焼室で爆発的燃焼を引き起こす可能性があります。爆発的燃焼は、防火扉のガラスを割るほどの激しさになることがあります。したがって、燃料が濃い煙を放出する場合、点火段階でストーブの前に留まらないように注意してください。そのため、ストーブにはガラスの破損のリスクを最小限に抑えるために必要なすべての燃焼炉の減圧安全システムが装備されています。
- ⚠ 警告: 燃料バッグが溶けるので高温面に接触しないようにしてください。
- ⚠ 注意: ストーブを再び始動する前に、着火の失敗によって生じた未燃ペレットの堆積物を取り除いてください。
- ⚠ 注意: 点火後で正常な燃焼が起きず、燃焼室内に大量の煙があることに気付いた場合は、一度ストーブの着火を止めて、使用しているペレットを交換してください。これはペレットの湿度が高すぎる可能性があります。そのまま点火を続けると、ストーブが危険になる可能性があります。
- ⚠ 注意: クリーニング中に海綿状で固いペレットの残留物 (いずれの場合も灰ではない) が残っていた場合、これはこのタイプのストーブでは使用できない品質の悪いペレットの燃焼残渣である可能性があります。そのまま使うと、火災や煙道での強い煙の発生につながる可能性があります。
- ⚠ 注意: 燃焼ポットでペレットが良好に燃焼していることを確認してください。燃えないペレットの蓄積に気付いた場合は、すぐにストーブの燃料供給を止め、販売店に連絡してください。
- ⚠ 注意: 子供がいる場合は細心の注意を払い、ストーブの前に近づかないようにしてください。

6.1 ペレットタンクの充填

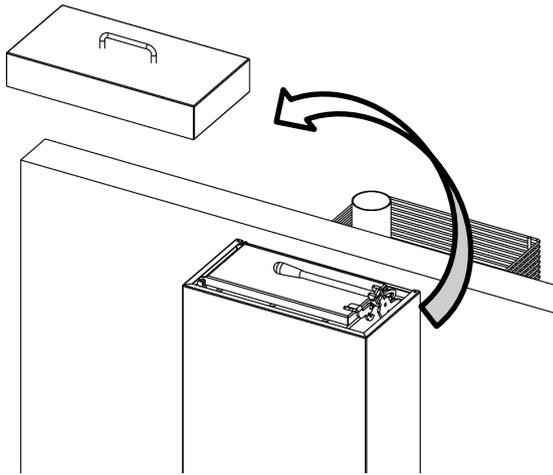


Fig. 18

トップカバーを持ち上げます

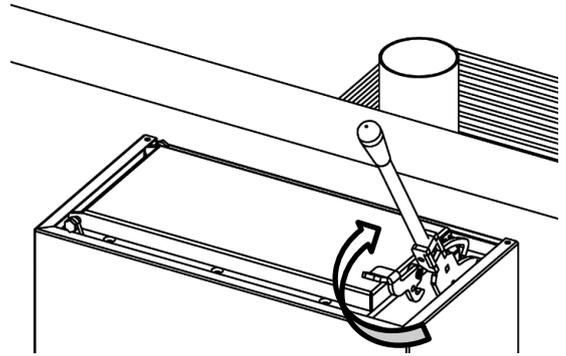


Fig. 19

レバーを垂直位置にする

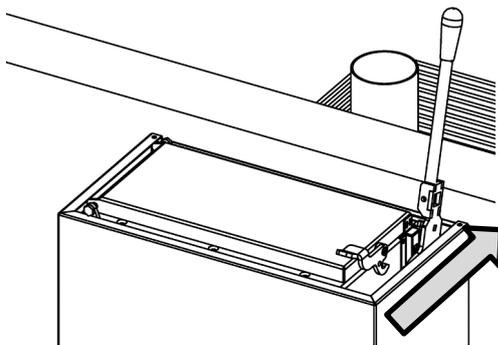


Fig. 20

レバーを前方に動かし（STOP 位置）、タンクの蓋のキャッチを開きます

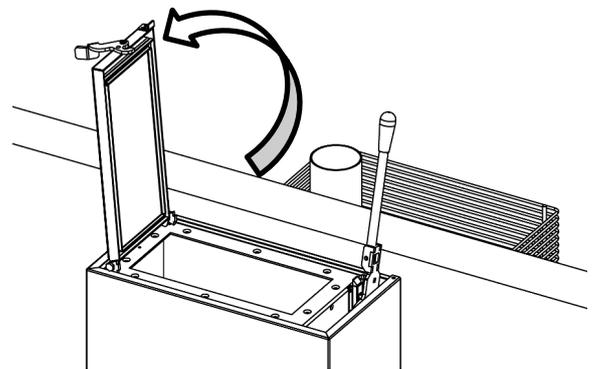


Fig. 21

タンクの蓋を開けてペレット燃料を投入

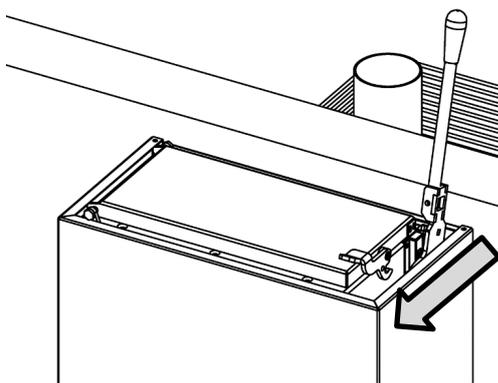


Fig. 22

タンクの蓋を閉め、レバーを後方に倒す（GO位置）

ペレット燃料の充填は、ストーブを稼働させたまま行うこともできます。

6.2 点火する

タンクにペレット燃料を入れたら、ストーブに点火する準備が整います。

⚠ 注意: 操作中は素手でドアに触れないでください。

⚠ 注意: 燃焼ポットとペレット降下スロープ出口は、毎回点火する前に常に清掃して、誤った始動を避けてください。(7.4 - 7.10 項参照)

⚠ 警告: 火傷の危険がありますので、清掃はストーブを消火して冷やしてから実行してください。

⚠ 注意: ストーブに点火する前に、燃焼ポットが燃焼室の後壁に向かって完全にはめ込まれていることを確認してください。

メイン ドアを開き、燃焼ポットのペレットの上に固体またはゲルの点火材を置き、ライター等で点火します。ドアを数分間半開きにしたままにし(この時間は家屋と煙道の温度によって多少変化します)、炎が後壁の二次燃焼穴の高さに達したらドアを完全に閉めます。

この時点でストーブが完全に正常運転となりました。

6.3 燃焼モード

下部にある給気調整ノブを使用して、流入する燃焼空気量を手動で変化させ、ストーブの燃焼出力を変化させることもできます。ノブを左に回すとストーブの出力が最小になり、右に回すと最大出力になります。

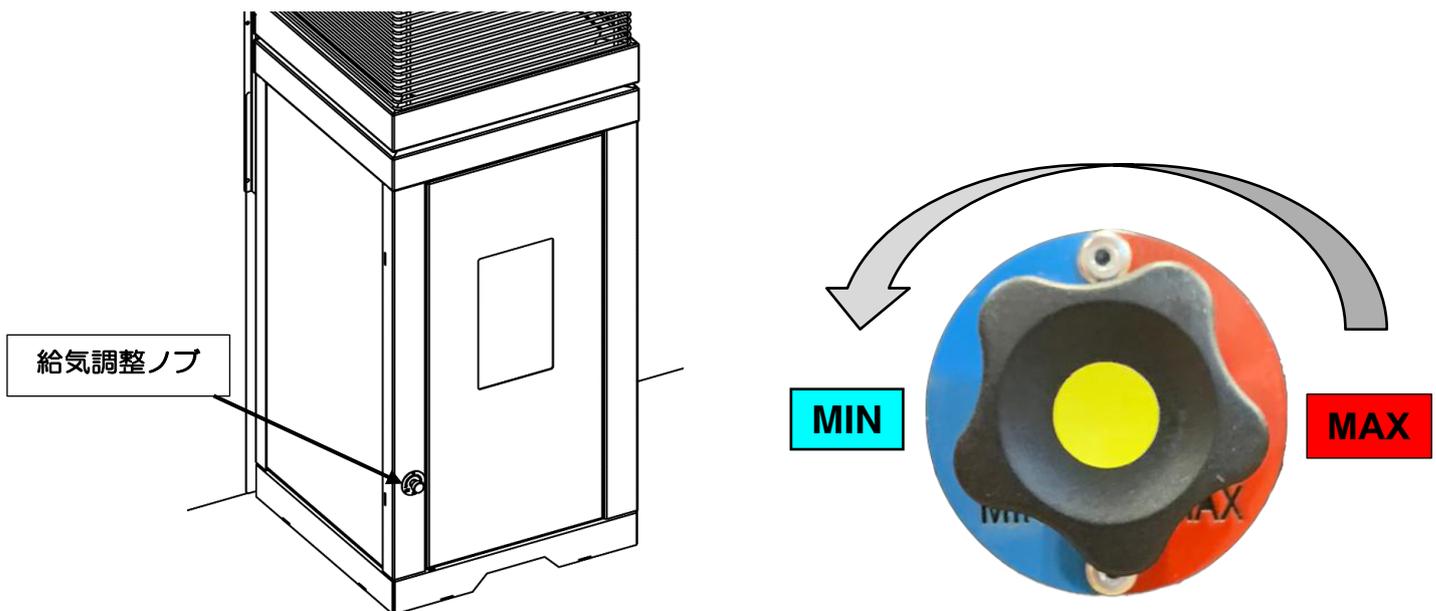


Fig. 23

⚠ 注意: ストーブの最小出力は、煙突のドラフトによって変化します。

⚠ 注意: サウナ室に人がいないときは、ストーブを常に最小出力に保ってください。

6.4 消火

レバーを STOP 位置に動かすと、燃焼ポットへのペレットの下降が中断され、その後燃焼が約 40分間続き、その後自動的に炎は消えます。

ストーブを再点火するには、レバーを GO の位置に動かしペレットを燃焼ポットへ落とし、着火剤を燃焼ポットのペレットの上に置きライター等で点火します。

⚠ 注意: 火傷しないため、完全消火後ドアを開けて掃除するまでに少なくとも 15分間待ってください。

⚠ 注意: 消火直後は火傷するので燃焼ポットに素手で触れないでください。

⚠ 注意: 運転中は素手でドアに触れないでください。

7 警告とメンテナンス

すべてのメンテナンス作業（清掃、交換など）は、火を消し、ストーブが冷えているときに行ってください。また、清掃に研磨剤は絶対に使用しないでください。

注意: 間違った清掃は安全に影響します。

7.1 安全上の注意事項

- 高齢者、妊婦、心臓病、高血圧、糖尿病、または健康上の問題を抱えている人は、サウナを使用する前に医師に相談してください。
- サウナ内での喫煙はご遠慮ください。
- 激しい運動をした直後のサウナの使用は避けてください。
- 飲酒後酔っている場合はサウナを使用しないでください。
- 眠くなったり、だるくなったり、気分が悪くなったりした場合は、すぐにサウナを離れてください。
- サウナ内の換気が十分であることを確認してください。

16歳未満のお子様には、この製品の使用をお勧めしません。

7.2 ドアの開閉

操作中はドアを閉めたままにしてください。ドアは、定期的なメンテナンスとクリーニングを行うために、ストーブがオフで冷えているときにのみ開くことができます。

7.3 灰の処理

燃焼残留物や灰が多く溜まり、燃焼ポット下部に到達するのを防ぐために、灰皿を使用後は必ず空にする必要があります。灰の処理は、蓋のしっかりした金属製の容器に入れて下さい。灰が最終的に消火されるまで、密閉容器は不燃性の台または土の上に置き、可燃物から十分に離して下さい。

⚠ 注意：灰の残り火は長時間残り続けます!!!

7.4 燃焼ポットのクリーニング

炎が赤みを帯びていたり、黒煙を伴う弱い場合は、ストーブが正しく機能していない状態で、灰の堆積物や付着物があることを意味する可能性があります、それらを取り除く必要があります。

着火前には必ず燃焼ポットを燃焼炉から取り外し、先のとがった工具を使用して詰まった穴を解放することに注意を払いながら、灰や付着物を取り除きます。

この操作は、特に異なる品質のペレットを使用される場合、各点火の最初の数回は特に必要です。この操作の頻度は、使用頻度と燃料の選択によって決まります。

毎回灰皿を空にして、燃焼ポットを確認することもお勧めします。注意: ストーブに点火する前に、燃焼ポットが正しく位置に挿入されていることを確認してください。

7.5 灰受けのクリーニング

毎回点火前に灰皿をチェックして、空にする必要があるかどうかを確認します。灰の処理については、7.3項を参照してください。

7.6 燃焼室のクリーニング

できれば毎回燃焼室に溜まった灰を掃除機で吸い取り、燃焼室をきれいに清掃してください。

注意: この掃除には、灰の吸引用に設計された掃除機が必要です。

7.7 熱交換室のクリーニング

ストーブが適切に機能するためには、通常年に 1 回（できればシーズンの初めに）、熱交換室内の清掃を行う必要があります。この作業の頻度は、使用するペレットの種類と使用頻度によって異なります。このクリーニングを実行するには、販売店に連絡することをお勧めします。

7.8 排気管システムの清掃

このメンテナンスを少なくとも数ヶ月に 1 度実行することをお勧めします。T フィッティングのキャップを取り外し、排気管内のクリーニングに進みます。必要に応じて、少なくとも最初の数回は、資格のある担当者に連絡してください。

7.9 金属およびセラミック部品のクリーニング

ストーブの金属部分を清掃するには、水で湿らせた柔らかい布を使用してください

アルコール、シンナー、ガソリン、アセトン、またはその他の脱脂剤で金属およびセラミック部品を洗浄しないでください。

これらの物質を使用した場合、当社は一切の責任を負いません。金属部品の色調の変化は、ストーブの不適切な使用に起因する可能性があります。

7.10 シューターのクリーニング

付属のスクレーパー (fig. 24) を使用して、燃焼ポットへのペレットの下降を遅らせたり妨げたりする付着物をペレット シュート (fig. 25) から取り除きます。



Fig. 24

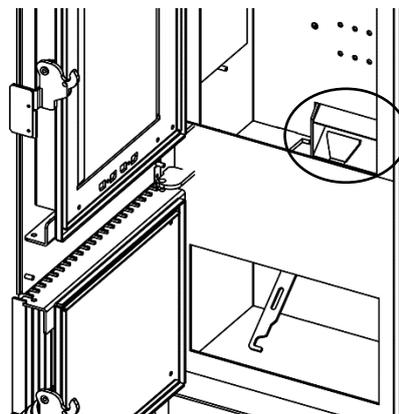


Fig. 25

正しい作動を維持するために、各点火の前にこの操作を実行することをお勧めします！

7.11 ガラスのクリーニング

ドアのガラスは、シンナーなどのアンモニア系および非腐食性の脱脂剤で洗浄（冷却時に）する必要があります。腐食性物質がストーブの塗料に接触しないようにしてください。塗料が損傷する可能性があります。ガラスが熱くなっている場合は、ガラスが冷めるまでドアを開けたままにして冷めてからクリーニングしてください。ガラスに傷や損傷を与える可能性のある材料は使用しないでください。

7.12 ガラスの破損

ストーブには厚さ5 mmのセラミックガラスが装備されており、750° Cの熱に耐えます。ガラスは、強い衝撃や不適切な使用によってのみ破損する可能性があります。ドアをボタンと強く閉めたり、ガラスを叩いたりしないでください。破損した場合は、ガラスをオリジナルのスペアパーツとのみ交換してください。交換については、販売店にお問い合わせください。

7.13 ストープを使わない季節には

最後の季節使用の後、以下の操作を実行します。

- ペレットタンクとシュートからすべてのペレットを取り除きます。
- 燃焼ポット、燃焼室、灰皿をきれいに清掃します。
- 排気管内をきれいに清掃します。必要であれば販売店に連絡してください。
- 年に 1 回、内部ライニングのパネルの後ろ領域のほこり、クモの巣などをきれいにします。
- 燃焼室内の結露を避けるため、ドアを半分開けたままにします。

7.14 通常および臨時メンテナンス

製品の効率を確保し、安全な操作を保証するために年に一度シーズンオフ時に販売店にメンテナンスをしてもらってください。

- 燃焼室の徹底的な洗浄。
- 排煙ダクトのクリーニングと検査。
- ガスケットのシールを確認してください。
- メカニズムと可動部品のクリーニング。

《保証規定》

1. 保証期間内に本取扱い説明書などの注意事項に従った正常な使用状態に於いて、万一故障した場合には、無料で修理または交換致します。ただし、保証書の提示が無い場合は保証対象外となります。
2. 保証期間内に故障して、無料修理（または交換）をお受けになる場合は、商品と保証書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店にご依頼下さい。
3. 保証期間内でも次の場合は有料修理または有償交換になります。
 - (1) 取扱説明書に基づかない使用上の誤りや無理な稼働、及び不当な修理、改造による故障もしくは損傷
 - (2) 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異や異常電圧による故障及び損傷
 - (3) 一般家庭用としてではなく、業務用として使用された場合の故障及び損傷
 - (4) 保証書に所定事項の記入が無い場合、あるいは字句文言を書き換えた場合など
4. 本製品の保証は日本国内においてのみ有効です。

《保証書》

商品名	LAMINOX 無電サウナペレットストーブ		
保証期間	1年間	お買い上げ 年月日	年 月 日
お客様	ご住所	〒	
	ご芳名	様	TEL E-mail
販売店	住所	〒	
	店名	(印)	TEL E-mail



サウナペレットストーブ輸入販売元

株式会社鶴巻育林サービス
〒939-1423 富山県砺波市東別所5303番地
TEL 0763 37 1268 FAX.0763-37-0188
<https://tsuru-maki.jp>

rev 07/2023 SAUNA6- JP